

| | |
|-------------|----------------------------|
| Syllabus Id | syl.-110491 |
| Subject Id | sub-110403802 |
| 更新履歴 | 20110325新規 |
| 授業科目名 | 工業英語 English for Engineers |
| 担当教員名 | 大久保進也 Shinya OHKUBO |
| 対象クラス | 制御情報工学科5年生 |
| 単位数 | 1学修単位 |
| 必修 / 選択 | 必修 |
| 開講時期 | 前期 |
| 授業区分 | 語学 |
| 授業形態 | 講義 |
| 実施場所 | S5HR |

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

技術者は、産学官のどの職場においても、英文の技術文書の読み書きは必須能力となっている。工業の代表的な6分野での技術会話を糸口に、工業英語の基礎を習得する。また、技術論文を作成する準備として、代表的なabstractの作文ができるようにする。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

中学校の理科、高専4年生までの英文法および英単語の習得。

| | Weight | 目標 | 説明 |
|---------|--------|----|---------------------------------------|
| 学習・教育目標 | | A | 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成 |
| | | B | 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成 |
| | | C | 工学専門知識の創造的活用能力の養成 |
| | | D | 国際的な受信・発信能力の養成 |
| | | E | 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成 |

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

工業英語は、文学や会話に比べ構造は簡単である。それは簡潔さと正確さを重視していることによる。ただし、技術者が扱う分野で使われる多くの専門用語や数学・物理学などにかかわる表現方法などは日常の英語学習とは別の取り組みを要する。本コースでは工業英検3級へのアクセスを目指す教科書で、工業英語の基礎を学ぶ。また、様々な分野の技術論文のabstractを読むことで、論文の書き方に触れ、独特の言い回しを習得する。卒業研究のabstractでその成果を発揮されたい。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

| 回 | メインテーマ | サブテーマ | 参観 |
|------|-------------|---|----|
| 第1回 | 前期オリエンテーション | 教育目標、授業の進め方、自宅学習の方法、評価方法 等々の説明 技術論文abstract読解(以後、適宜) | |
| 第2回 | 機械工学 | mechanical engineering 1 | |
| 第3回 | 機械工学 | mechanical engineering 2 | |
| 第4回 | 電気電子工学 | electrical and electronical engineering 1 | |
| 第5回 | 電気電子工学 | electrical and electronical engineering 2 | |
| 第6回 | 建築工学 | architectural engineering 1 | |
| 第7回 | 建築工学 | architectural engineering 2 | |
| 第8回 | 化学工学 | chemical engineering 1 | |
| 第9回 | 化学工学 | chemical engineering 2 | |
| 第10回 | 環境工学 | environmental engineering 1 | |
| 第11回 | 環境工学 | environmental engineering 2 | |
| 第12回 | 情報工学 | computer engineering 1 | |
| 第13回 | 情報工学 | computer engineering 2 | |

| | | | |
|--|--|--------|---|
| 第14回 | 演習 | 演習問題など | |
| 第15回 | 前期期末試験 | | × |
| 課題 授業で学習した内容を復習すること 配布する技術論文abstractを読んで大意をつかんでくること | | | |
| 評価方法と基準 評価方法： ・前回学習した教科書内容と単語課題に関する小テストを毎回行う。 ・定期試験では毎回の授業での習得状況と自己研鑽の状況进行评估する。 | | | |
| 評価基準： 授業中の小テスト 30%、 定期試験 60%、 課題履修および授業態度 10% | | | |
| 教科書等 | 日本工業英語協会発行「工業英語ワンステップ 4級テキスト 3級へのアクセス」, 配布資料 | | |
| 先修科目 | 4年生までの必修科目 | | |
| 関連サイトのURL | | | |
| 授業アンケートへの対応 | 小テストの内容をより専門性の高いものとする。 | | |
| 備考 | 1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 | | |